

教育支援（美術教育）

学校内での美術授業の普及を目指して



グループワークでミツバチをテーマに作品づくり



研修後に各学校の授業の様子を観察



授業後に作品を展示している学校の例

美術教員トレーニング実施

昨年度に引き続き、第3回目となる美術教員トレーニングを、スワイリエン州(2013年8月28～30日)、カンボット州(9月3～5日)にて実施。73名が参加しました。

続いて、第4回目の美術トレーニングは、州教育局職員、郡教育局職員、対象校の学校長も招待し、カンボット州(2014年3月4～6日)、スワイリエン州(3月11日～13日)にて実施しました。

2回のトレーニングは、小学校での美術教員経歴の長い鈴木光男氏(東京未来大学教授)を招き、以下の目的で実施し、参加教員の子ども達への指導方法に関する理解が深まりました。

- ・美術教育の意義や重要性をより一層理解する。
- ・想像力を使って何かをつくる体験をする機会とする。
- ・子ども達への指導方法を理解する。
- ・日本人専門家の指導方法や経験から学ぶ機会をつくる。
- ・絵の具やクレヨンを使った具体的な技法について紹介する

また、今回は、トレーニング準備の段階から、ローカルスタッフ自らがトレーニングの目的や、美術教育の意義を理解できるように試みたことによって、トレーニング中の動きや参加者に対しての働きかけがより主体的、能動的になったことは、大きな収穫と言えます。

現場の声を

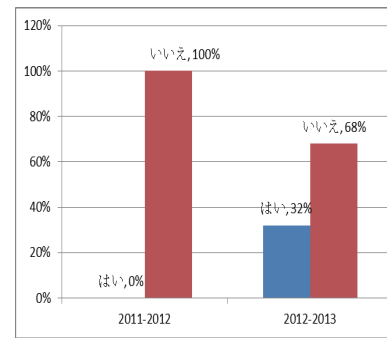
プロジェクトに反映させるために

2013年11月、カンボット州、スワイリエン州の学校長32名、絵画指導教員59名、地域住民及び父兄93名、生徒756名を対象としたアンケート調査を実施しました。この調査によって明らかになったことは以下の通り。

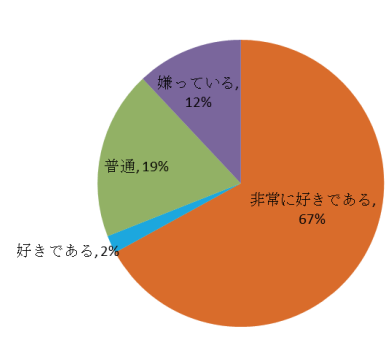
- ① 現在、学校長は教員に対しても生徒に対しても絵画教育が良い効果を持つことを理解している。
- ② 上記①の結果、現在少なくとも毎週木曜日に1時間半の絵画教育を実施することをLLS(ローカルライフスキル:地域生活に必要な知識・技能習得のための授業)カリキュラムに組み込んでいる。
- ③ 絵画教育の中心となる学校(コラスクール)の教員の技量が高まり、特にこれらの先生の姿勢がより友好的で協力的になった。
- ④ 上記③の結果、他の一般の先生と絵画教育の技量を共有することが可能になったと学校長は考えている。

2012年度の学校長インタビューでは、ほとんどの学校で十分に美術授業が実施されていないことが分かりましたが、現在では、対象校の中で美術教育を取り入れ始めた学校が増えてきました。(右データ参照)。更にいくつかの学校では、読書の時間や土曜日の追加授業でも行っていることが分かりました。

学校長は絵画教育を毎週の時間割に組み込んでいますか？



生徒たちは絵を描くことにどの程度の興味を持っていますか？



プロジェクトの背景

カンボジアの美術教育は、教育省から出ている教育課程の中で独立した科目ではなく、小学校では「社会科」の一部、教員養成学校では「芸術科」の一部として指導されている。指導内容は、臨画がメインとなっており、子ども達が自ら想像し、新しい考えを生み出すような内容が非常に少なく、子ども達の情操を育む内容とは言えない。また、年間を通して時間数も限られていることから、十分に授業を実施することが出来ない状況である。

第12回絵画展に12,575名来場



クバルローミア小学校での絵画展

絵画展を実施した会場によっては、自主的に対象校の周辺の学校にも作品出展を呼びかけたり、独自に厚紙を使った掲示物を作って展示したりする学校もあり、郡教育局職員を始め学校長や、トレーニングを受けた教員が学校内、地域で美術教育を実践していこうという意識が感じられました。

第12回絵画展表彰式は、2014年度に入り、5月19日(カンボット州)、5月20日(スヴァイリエン州)の開催となりました。

絵画授業用画材34校に支援

今年度は、新対象地域となったスワイリエン州14校、カンボット州18校に加えて、2州の教員養成学校に画材を支援しました。主な画材は、クレヨン、色鉛筆、水彩絵の具、パレット、絵筆、画用紙など。対象地域の2州では、美術トレーニングにて画材の使用法も指導した上で寄贈することができました。美術授業のモニタリングの際に、寄贈した画材が有効に使われていることが分かりました。



寄贈した画材で絵を描く生徒

絵画審査会へ専門家派遣

2013年12月2～11日まで、日本画家の中村ひろみ氏を派遣し、2地域の審査委員会を実施しました。

審査会は、プロジェクト対象校の先生方も参加し、審査を通じて絵画の鑑賞力や評価について学びあう場となりました。昨年度と比較し、先生方が、子ども達の個性や、独自性に焦点を当てて絵を選んでいる様子があり、トレーニングで指導した内容が先生達の中にしっかり定着し、実践にも生きている事が分かりました。



絵画展審査委員会の様子

第12回カンボジア絵画展 小山内美江子賞

<小学校部門>

「僕の両親の仕事」
プレイタアイ小学校6年
Poeng Samnang/男子11歳
(スワイリエン州)



<教員養成学校部門>

「私のコミュニの10年後の発展」
スワイリエン州教員養成学校
Thoen Savry/女性19歳
(スワイリエン州)